

2011年2月

考古 No. 2

けんぱくものしりシート

いし ぼう ちょう 石 包 丁



これは、石包丁いしぼうちょうといって弥生時代やよいじだいの人たちが使つかっていた石器せっきです。石包丁いしぼうちょうという名前なまえですが、今の包丁いま ぼうちょうとは使つかい方がぜんぜんちがいます。では、いったいどんなふうつかに使つかっていたのでしょうか。写真しゃしんの石器せっきをよく観察かんさつして、考かんがえてみてください。裏面うらめんで、答こたえを紹しょうかい介します。

石器せっきはどちらも、長ながさがだいたい20cmちかくで幅はばは5cmぐらい。平ひらべったくなっています。

どちらにも穴あながあいている・・・何なんのためにあけたのかな？



表面ひょうめんがきれいに磨みがかれてつるつるピカピカ！片側かたがわは刃はになっています。

こめづく米作りやよいじがはじまった弥生時代やよいじの遺跡いせきからみつけられました。今は水田いみ すいでんがひろがっています。



さあ、^{こた}答えはわかったかな？^{じつ}実はこの^{いしほうちよう}石包丁、^た田んぼで^{みの}実った^{いね}稲の^ほ穂をつみとる^{どうぐ}道具、“^ほ穂つみ具”^ぐだったんです。^{とうじ}当時のお米は^{こめ}今とちがって^{いま}実をつけるときが^みバラバラだったので、^{いちど}一度に^か刈り取ることは^とできませんでした。そこで、この^{いしほうちよう}石包丁^{つか}を使って^{みの}実った^ほ穂だけをえらんで、^みつみとっていたというわけです。

^{いしほうちよう}ふつう石包丁といわれている^{せつき}石器は長さがだいたい20cm、幅は5cmぐらいの^{おお}大ききで、^てのひらにすっぽりおさまります。^{あな}ふたつの穴には^{ゆび}ひもと^{てくび}おし、^ま指や手首にかけたり^お巻きつけたりして、^お落ちないように^{あんてい}安定させたと^{かんが}考えられています。^{こめづく}米作りといっしょに^{たいりく}大陸からやってきて、^{こめ}米の^{しゅうかく}収穫には^か欠かせない^{たいせつ}大切な^{どうぐ}道具として^{つか}使われていました。



この^{いしほうちよう}ふたつの石包丁が見つかったのは、^{いわて}岩手県南部、^{おうしゅうし}奥州市^{いさわく}胆沢区の^{しみずたい}清水下^{いせき}遺跡といっところ^{ねん}です。ここは1800年^{まえ}ぐらい前の^{いせき}遺跡で、^{ちか}近くの^{いせき}遺跡では^{すいでんあと}水田跡もみつ^かつています。^{けんなん}県南地方は^{いわて}岩手の^{こめ}米どころ^かですが、^{こめ}おいしいお米の^{れきし}歴史はもうこのころには、^ははじまっていた^たんです^ね。それに^{して}も^{やよい}弥生時代の^{ひと}人たちが^{いま}今の^{いね}稲の^{みの}実りの^{ようす}様子を見たら、^みきっと^びびっくりする^{こと}でしょう。

参考にした本 『^いいわて^み未来への^い遺産 ^い遺跡は語る ^き旧石器～^こ古墳時代』^{いわて}岩手日報社 2000年 ^{ねん}他

^{らいげつ}来月(3月)の
けんぱくものしりシートは
^{れきし}歴史-2だよ！
おたのしみに！



岩手県立博物館
〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>